

事 業 報 告

1. 定 時 総 会 (書 面 決 議)

大分県ドローン協議会の定時総会は、新型コロナウイルス感染の拡大防止の観点から書面決議によって諮ることとした。

協議会規約第 13 条の規定を準用し、会員の過半数の書面表決書提出によって成立したとみなし、議案の可決については、書面表決書提出会員の賛成過半数をもって決するものとした。議事録署名人は、議長が役員の中から 2 名を指名した。

また、総会開催時のセミナーに代えて、オンラインセミナーを開催した。

(1)日 程

令和 3 年 6 月 10 日、書面決議に関する文書（議案書、表決書等）の発送

令和 3 年 6 月 25 日、事務局への必着

(2)議 事

①第 1 号議案：令和 2 年度事業報告及び収支決算について

②第 2 号議案：令和 3 年度事業計画及び収支予算について（案）

(3)報 告 事 項

①企画委員会委員の退任について

②大分県ドローン協議会分科会設置規程及び大分県ドローン協議会分科会助成金交付要綱の制定について

(4)定 足 数 に つ い て

会員数： 1 8 7 会 員（令和 3 年 6 月 28 日時点）

書面表決書提出会員数： 1 6 8

※）会員の過半数の書面表決書の提出により、協議会規約第 13 条第 1 項の規定を準用し、定時総会が成立したとみなした

(5)議 案 の 表 決

協議会規約第 13 条第 2 項の規定を準用し、すべての議案について書面表決書提出の 168 会員中、いずれも過半数の賛成をもって原案のとおり決したとみなした。

(6)オ ン ラ イ ン セ ミ ナ ー の 開 催

集合形式での総会における基調講演等に代えて、オンライン形式で「ドローン産業振興セミナー」を開催した。

・日時：令和 3 年 6 月 18 日（金） 13:00～15:50

・場所：オンライン（Zoom 配信）

・参加者数：延べ 104 名（当日参加 68 名、後日配信視聴 18 名）

・内容：

- ①御挨拶 大分県ドローン協議会 会長 石井 四郎
- ②基調講演「人とドローンが共生する未来社会の実現にむけて」
日本無人機運行管理コンソーシアム 事務局長 秋本 修 氏
(福島ロボットテストフィールド副所長、東京大学スカイフロンティア社会連携講座
シニアリサーチフェロー)
- ③県内企業によるドローン活用プロジェクト
 - ・おおいたドローンビジネスプラットフォーム事業 (株式会社ネオマルス)
 - ・ドローン講習オンライン実技テストシステム (DROTS) の開発について
(株式会社オーイーシー)
 - ・ドローンを活用した設備管理強化への取組み状況 (昭和電工株式会社)
- ④ドローン協議会の事業報告及び事業計画等について

2. 企画委員会の開催

令和3年度の事業進捗及び令和4年度の暫定事業計画及び収支予算等について、新型コロナウイルスの国内外の感染拡大の影響を考慮し、集合形式、およびオンライン参加の併用により、企画委員会を開催した。

| 日程 | 議事 |
|--------------------------|--|
| 令和3年4月14日 9:00~10:00 | ①令和2年度：事業報告・決算報告について ②令和3年度：事業計画案・予算案について ③分科会の取組みについて |
| 令和4年3月24日 10:00~11:00 | ①令和3年度事業報告・決算報告について ②令和4年度事業計画及び収支予算について (案) ③その他 |

3. 事業

(1)人材育成事業

新型コロナウイルスの感染防止のため、オンライン形式でセミナーを開催した。ドローンの活用事例や関連技術等の紹介を目的として、物流や災害・防災、インフラ点検など、計14テーマについて会員限定で配信した。

| 配信開始 | テーマ、概要 | 受講者 |
|----------|---|-----|
| 令和4年2月7日 | テーマ：鳥獣害対策 講演①：鳥獣害分野のドローン活用について 講師：株式会社T&T ドローン事業部 リーダー 中田 耀介 氏 | 35名 |

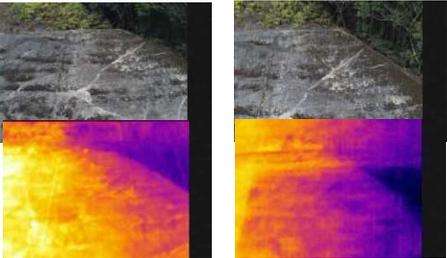
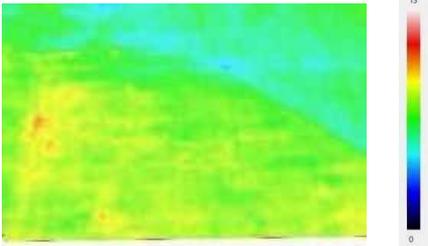
| | | |
|-----------|--|-----|
| | <p>講演②：南小国町のドローンとシステムを活用した鳥獣害対策について</p> <p>講師：熊本県南小国町 まちづくり課 企画商工観光係 主査 高藤 郁弥 氏</p> | |
| 令和4年2月8日 | <p>テーマ：モビリティ</p> <p>講演：ドローンの産業振興に向けた取組</p> <p>講師：経済産業省 製造産業局 次世代空モビリティ政策室 室長 宇田 香織 氏</p> | 28名 |
| 令和4年2月8日 | <p>テーマ：観光・イベント・スポーツ</p> <p>講演：観光・イベント分野におけるドローンショーの活用について</p> <p>講師：株式会社ドローンショー 代表取締役 山本 雄貴 氏</p> | 25名 |
| 令和4年2月15日 | <p>テーマ：測量</p> <p>講演：測量におけるドローン関連技術と活用事例</p> <p>講師：do 株式会社 代表取締役社長 高原 正嗣 氏</p> | 36名 |
| 令和4年2月15日 | <p>テーマ：農業</p> <p>講演：農業分野におけるドローン活用の現状とその可能性</p> <p>講師：do 株式会社 代表取締役社長 高原 正嗣 氏</p> | 23名 |
| 令和4年2月15日 | <p>テーマ：点検</p> <p>講演：ドローンを活用した点検分野の現状とその可能性</p> <p>講師：do 株式会社 代表取締役社長 高原 正嗣 氏</p> | 34名 |
| 令和4年2月21日 | <p>テーマ：救急・医療</p> <p>講演①：救急・災害医療分野のドローン活用</p> <p>講師：岐阜大学 医学部附属病院 高次救命治療センター 医師 名知 祥 氏</p> <p>講演②：モバイルファーマシーへの医薬品供給におけるドローン活用の可能性</p> <p>講師：岐阜薬科大学 地域医療実践薬学研究室 教授 林 秀樹 氏</p> | 19名 |
| 令和4年2月21日 | <p>テーマ：災害・防災</p> <p>講演：「災害・防災分野でのドローンの活用」 Hec-Eye（ヘックアイ）で情報収集と共有をさらに効率化！</p> <p>講師：株式会社リアルグローブ 笠門 浩一郎 氏</p> | 25名 |
| 令和4年2月22日 | <p>テーマ：最新機体</p> <p>講演：ACSLの産業用ドローンの活用事例</p> | 22名 |

| | | |
|-----------|---|-----|
| | 講師：株式会社 ACSL 事業開発本部長 六門 直哉 氏 | |
| 令和4年2月22日 | テーマ：国の動向 講演：ドローンの技術政策に向けた国土交通省の取り組み 講師：国土交通省 総合政策局 技術政策課 課長 伊藤 真澄 氏 | 28名 |
| 令和4年2月24日 | テーマ：インフラ点検 講演：ドローン「インフラ点検/DX」最前線 講師：ブルーイノベーション株式会社 代表取締役社長 執行役員 CEO 熊田 貴之 氏 | 22名 |
| 令和4年2月24日 | テーマ：ライセンス・スクール・機体登録 講演：ドローン「レベル4飛行」に向けた制度と技術 講師：一般社団法人日本 UAS 産業振興協議会 理事長 鈴木 真二 氏 | 29名 |
| 令和4年2月25日 | テーマ：警備・監視 講演：スマート港湾の取り組みとAI解析 情報共有システムの活用について 講師：株式会社エアーズ 事業企画部 インストラクター 細井 智也 氏 | 16名 |
| 令和4年2月25日 | テーマ：物流 講演：2022年度レベル4解禁、ドローン物流の最新動向 講師：ブルーイノベーション株式会社 代表取締役社長 執行役員 CEO 熊田 貴之 氏 | 22名 |

(2)技術・製品開発支援事業

ドローン関連産業の育成を図るため、ドローンの機体や周辺機器、ドローンを用いた新たなソフトウェアやサービス等の研究開発に係る経費の一部を補助した。製品開発およびソフト・サービス開発に関する9件の申請を受理し、審査を通じて3件に補助金を交付した。また、ドローンによる産業上の課題解決または地域振興につながるドローンの活用事例創出のための実証実験を支援し、ドローンの社会実装を促進するための経費の一部を補助した。計5件の申請を受理し、審査を通じて4件に補助金を交付した。

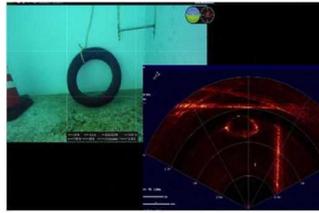
①研究開発： 補助額 500 万円以内 、 補助率 2/3 以内

| テーマ名 (補助金精算額) | 実施企業 開発品 | 成果概要 |
|---|---|---|
| <p>水上自動走行能力を備えた導水路内部点検用 USV 型ドローンの開発 (5,000 千円)</p> | <p>九州電力株式会社 APEX JAPAN 株式会社</p>  <p>開発した機体</p> <p>機体からの撮影画像</p>  | <ul style="list-style-type: none"> 導水路内部点検における作業員の身体的負担軽減及び点検に伴う発電所停止期間の短縮を目的に、水流のある中で水路のひび割れ等の状況確認ができる USV を開発。 水流や導水路の拡幅・縮小、曲がりのある中で、導水路の中央を通り、画像でひび割れ等を確認できる機体の開発を実現。 |
| <p>ドローンで撮影した赤外線熱画像の二時刻温度差解析ソフトの開発 (4,942 千円)</p> | <p>株式会社テクノコンサルタント</p>  <p>二時刻での法面撮影 (左：高温時、右：低温時)</p>  <p>二時刻の温度差画像 (オレンジ色の個所に浮きの可能性有)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 法面点検の負担軽減及び効率化を図るため、ドローンで撮影した同位置二時刻での画像ずれ(※)の補正を目的に、ソフトウェアを開発。※プログラミング飛行により同位置で撮影しても風の影響等で微妙なずれが生じる。 二時刻の画像ずれを調整するソフトウェアを開発し、二時刻温度差画像を生成することで、法面点検の効率化を実現。 |

| | | |
|---|---|---|
| <p>ドローンに搭載した赤外線カメラによる、工場内点検システムの構築 (4,874 千円)</p> | <p>柳井電機工業株式会社</p>  <p>ソフトウェアによる異常部診断</p>  <p>水上ドローンの試作機</p> | <ul style="list-style-type: none"> 工場内点検の負担軽減及び効率化を図ることを目的に、蒸気配管検査ソフトウェア及び水上ドローン（水中ドローン搭載）を開発。 工場内の蒸気配管検査に好適なソフトウェアの開発を実現。 水上ドローンについては、試作機を開発し、引き続き実用化に向けた開発を実施。 |
|---|---|---|

②社会実装促進： 補助額 150 万円以内、補助率 1/2 以内

| テーマ名 (補助金精算額) | 実施企業 開発品 | 成果概要 |
|--|---|---|
| <p>ドローンを活用した麦作における省力化及び低コスト化技術の検証 (1,500 千円)</p> | <p>株式会社ゆふ農業サポート</p>  <p>播種作業</p> <p>ドローン播種による生育状況</p>  | <ul style="list-style-type: none"> 麦作の効率化・収益向上を図るため、ドローンによる播種及び追肥の実用可能性を検証。 従来の農法による麦作（対照区）と比較し、実証区では播種深度が深くなり、出芽がやや遅れたものの、播種後の耕起を改善することで対照区と同等程度の出芽数が見込まれるとともに、10ha あたり 33 時間程度の労働時間削減に貢献。 |

| | | |
|--|--|--|
| <p>濁水中での水中ドローンの活用促進 (1,500 千円)</p> | <p>株式会社テクノコンサルタント</p>  <p>水中ドローンとソナー</p> <p>実映像とソナー映像の比較</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・水中ドローンによる濁水中での物体確認を目的に、マルチビームイメージングソナーの活用可能性を検証。 ・カメラでは 20cm 程度の視程しか得られない濁水中でも、離れた位置から物体の形状を把握できることが確認でき、活用範囲の飛躍的拡大を実現。 |
| <p>屋外文化財を後世に。測量ドローンを用いた記録保存への取り組み (431 千円)</p> | <p>株式会社文化財保存活用研究所</p>  <p>熊野磨崖仏の測量</p> <p>3Dデータ</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害における史跡の復旧等での活用を目的に、災害前の史跡に対して、測量ドローンを用いた効率的な測量の実証実験を実施。 ・ドローンを用いた写真測量及び記録保存用 3Dモデル化を実現するとともに、大幅な作業負担の軽減が図られた。 |
| <p>ドローンを用いた境界調査 (1,187 千円)</p> | <p>薩摩陽平土地家屋調査士事務所</p>  <p>オルソ画像と地積測量図等の比較</p> <p>境界確認資料等の 3Dデータ</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで費用対効果等で困難だった広大地や急斜面などの境界調査を可能にし、土地利用を円滑にすることを目的に、ドローンによる効率的な測量を検証。 ・ドローン空撮を通じてオルソ画像及び 3次元点群を作成することで広大地所有者の測量可能箇所の拡大や様々な事情で現地立会できない場合の境界確認資料の作成を実現。 |

(3)情報提供と連携事業

①電子カタログ制作

協議会会員の販路開拓やビジネスマッチング等に寄与することを目的として、令和2年度に61社・団体の情報を掲載した電子カタログを制作し、協議会ホームページで公開した。令和3年度は、掲載内容にドローン関連の周辺装置やソフトウェアを追加し、38社・団体の情報を掲載した。

| | |
|-------|---|
| 掲載企業等 | 38(社・団体) |
| 掲載内容 | <p>①基礎情報 企業・団体等の名称、URL、連絡先(メール、電話)</p> <p>②ドローン関連情報 現在のドローン事業、自社用途、所有ドローン(機種、台数、タイプ:上空・陸上・水上・水中)、周辺装置(レーザスキャナ、赤外線カメラ等)、ソフトウェア(診断、解析等)、オペレータ(人数、ライセンス等)</p> <p>③自社PR</p> |

②実証実験等の紹介動画の制作および公開

ドローンによる産業上の課題解決、地域振興につながる事例や新たなビジネスの創出等を目的とし、活用の概要や効果などを分かりやすく情報発信するために、ドローン活用事例の動画を制作および公開した。令和3年度の実施事業は、協議会の社会実装促進事業の採択テーマのうち2件及び大分県における物流実証プロジェクト4件について動画を制作した。今後、ホームページでの公開を予定している。

令和3年度 大分県ドローン協議会 社会実装促進事業

| 実施主体 | テーマ | 概要 |
|----------------|--------------------------------|---|
| 株式会社ゆふ農業サポート | ドローンを活用した麦作における省力化及び低コスト化技術の検証 | 麦作におけるドローンを活用した播種・追肥による省力化・低コスト化の検証に関する実証実験 |
| 株式会社文化財保存活用研究所 | 屋外文化財を後世に。測量ドローンを用いた記録保存への取り組み | 屋外の文化財の記録保存を目的とし、ドローンと測量技術を融合した機材を用いた文化財保護や活用に関する実証実験 |

令和3年度 大分県ドローン物流社会実装プロジェクト

| 実施主体 | テーマ | 概要 |
|-----------------|---------------------|--|
| 株式会社ゼンリン | 遠隔診療×ドローン物流実証事業 | 佐伯市大島及び鶴見半島での遠隔診療や、ドローンによる医薬品の配送に関する実証実験 |
| ciRobotics 株式会社 | 離島・過疎地物流×ドローン物流実証事業 | 津久見市無垢島での生活利便性向上を目指し、ドローンによる買い物・医薬品の配送に関する実証実験 |
| ciRobotics 株式会社 | 救援物資配送×ドローン物流実証事業 | 令和2年7月豪雨で孤立を経験した日田市中津江村における、ドローンによる救援物資の配送に関する実証実験 |
| 大分県農業農村振興公社 | 大分農業文化公園での物流実証事業 | 大分農業文化公園で新たに実施する冬キャンプに併せて、ドローンでBBQ用お肉の配送に関する実証実験 |

③情報提供

ホームページや会員向けのメール便を通じて、協議会が主催するセミナーや補助事業、協議会会員の取組などについて情報発信した。

- ・ホームページ： 事業概要、セミナーの案内・受付、補助事業の案内・受付、会員一覧、会員の取組紹介（電子カタログ、動画）、入会受付、問合せ、など
- ・会員向メール便： セミナーの開催、補助事業の公募、協議会会員の取組紹介、ドローン関連情報の紹介、大分県からのお知らせ、など

(4)コーディネーター事業

コーディネーターを協議会に配置し、研究開発事業に関する課題への指導や助言を実施した。また、会員企業の技術連携などを支援した。

| 氏名 | 活動内容 |
|-----------------------------|---|
| 池田 喜一 氏 (元産業技術総合研究所 研究員) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発の進捗状況管理 ・ 研究課題への指導・助言 ・ 会員企業の技術連携など |

(5)分科会の開催

協議会の会員数は200社・団体を超過しており、令和元年度よりアンケートや意見交換会などを通じて会員の取り組みや課題、要望などを収集し、令和3年度に活動目的を明確にした2つの分科会を設立した。

①測量・点検・調査分科会

目的：測量・点検・調査分野へのドローン活用に関して会員が連携して事例研究、課題の抽出、研究開発、研究成果の発表（実証実験や展示会出展など）及び討議することで、技術レベルの向上及び活用促進を図る。

分科会長：株式会社テクノコンサルタント 会長 伊東 修 氏

分科会会員：17事業者

| 日程 | 概要 | 参加者 |
|------------|---|-----|
| 令和3年4月9日 | 実証試験（法面調査・測量） | 16名 |
| 令和3年4月23日 | 実証試験（トンネル点検） | 40名 |
| 令和3年6月3日 | 講演会（大分県測量設計コンサルタンツ協会） | 51名 |
| 令和3年6月25日 | 見学会（橋梁点検：下部工） | 50名 |
| 令和3年7月30日 | 見学会（水中・管路・水上調査） | 78名 |
| 令和3年11月2日 | 講演会（大分県建設技術センター） インフラ点検・調査（橋梁）の現状と未来 | 70名 |
| 令和3年11月12日 | 講演会（大分県建設技術センター） 法面の点検・調査の新技术の紹介 | 70名 |
| 令和3年11月16日 | 大分工業高校生徒に対して、出前講座、操縦体験、展示を実施 | 14名 |
| 令和3年11月19日 | 佐伯豊南高校生徒に対して、出前講座、操縦体験、展示を実施 | 15名 |
| 令和3年12月3日 | 見学会（橋梁点検） | 38名 |

※その他、8月に講演会、2月に展示会を予定していたが、新型コロナウイルス感染の拡大防止の観点から延期

②観光・教育・エンタメ分科会

目的：観光・教育・エンタメなどの分野へのドローン活用に関して会員が連携して事例研究、課題の抽出、研究開発、研究成果の発表（イベント開催など）及び討議することで、技術レベルの向上及び活用促進を図る。また、子どもの科学技術への興味・関心を育むとともに、地域振興への展開やドローンの普及啓発を図る。

分科会長：株式会社オーイーシー 執行役員 DX推進事業部 事業部長
野崎 浩司 氏

分科会会員：9事業者

| 日程 | 概要 | 参加者 |
|------------|---|------------------------------|
| 令和3年5月7日 | 今後の活動内容について意見交換など | 15名 |
| 令和3年6月22日 | ドローンサッカーの概要説明・普及に向けた意見交換・体験会 | 16名 |
| 令和3年10月19日 | 活動計画案の概要説明、意見交換 | 10名 |
| 令和4年1月8、9日 | 農業文化公園においてイベントを実施。 (ドローンサッカー、トイドローン及び水中ドローンの操縦体験会、機体の展示会、デモフライト、FPVドローンデモ、空撮ドローン映像のVR体験会、ドローン講話) | 延べ 2,839名 (農業文化公園来場者数) |

(6)アドバイザからの助言等

ドローン産業の各種分野に詳しい専門家3名を、協議会のアドバイザとして登録した。ビジネス面や企業コーディネート、技術動向などの助言をいただいた。

| 氏名 | 分野 | 実績 |
|-------------------------------------|------------------------------|--|
| 坂本 義親 氏 (株式会社 ORSO 代表取締役 CEO) | ドローン産業におけるビジネス戦略分野についての指導等 | 人材育成セミナーにかかる講師コーディネート、会員企業のビジネス展開への助言等 |
| 澤田 雅之 氏 (澤田雅之技術士事務所 代表) | 警備などアンチドローンに関する技術分野についての指導等 | ドローンに関する技術動向や政策動向・法規制などについての情報提供等・助言等 |
| 戸澤 洋二 氏 (戸澤洋二技術士事務所 代表) | ドローンの制御や通信に関する無線技術分野についての指導等 | 無線関連機器、特に映像伝送装置や運用調整システムについての情報提供・助言等 |

4. その他の取り組み

(1)ドローンビジネスプラットフォーマー事業への支援

県が令和2年度から実施しているドローンビジネスプラットフォーマー支援事業について、プラットフォーマー事業者（(株)ネオマルス、(株)テクノコンサルタント、九州電力(株)大分支社、(株)ザイナス）と連携し、活動計画に対する意見交換やプラットフォーム（Webサイト）に掲載するドローンサービスの開発活動等に協力・支援を行った。

令和3年度収支決算

自：令和3年4月1日 至：令和4年3月31日

【収入の部】

(単位:円)

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 予算額に比べ 決算額の増減 | 備考 |
|-----|------------|------------|------------------|-----------------|
| 会費 | 1,800,000 | 1,850,000 | 50,000 | 年会費10,000円×185社 |
| 負担金 | 24,639,024 | 23,141,789 | △ 1,497,235 | 大分県負担金 |
| 繰越金 | 2,987,782 | 2,987,782 | 0 | |
| その他 | 0 | 104 | 104 | 預金利息 |
| 計 | 29,426,806 | 27,979,675 | △ 1,447,131 | |

【支出の部】

(単位:円)

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 不用額 | 備考 |
|---------------------|-------------------|-------------------|------------------|-----------------------|
| 人材育成事業費 | 2,200,000 | 1,595,000 | 605,000 | |
| 報償費 | 250,000 | 0 | 250,000 | 講師謝金 |
| 旅費 | 320,000 | 0 | 320,000 | 講師旅費 |
| 委託料 | 1,600,000 | 1,595,000 | 5,000 | Webセミナー企画開催(14テーマ) |
| 使用料及び賃借料 | 30,000 | 0 | 30,000 | 会場使用料 |
| 技術・製品開発支援事業費 | 19,538,400 | 19,507,000 | 31,400 | |
| 報償費 | 36,000 | 73,000 | △ 37,000 | 審査委員謝金 |
| 旅費 | 2,400 | 0 | 2,400 | 審査委員旅費 |
| 補助金 | 19,500,000 | 19,434,000 | 66,000 | ①製品開発:3件, ②社会実装促進:4件 |
| 情報提供と連携事業費 | 1,805,000 | 1,573,000 | 232,000 | |
| 旅費 | 150,000 | 0 | 150,000 | 学会等旅費 |
| 委託料 | 1,600,000 | 1,573,000 | 27,000 | 動画制作(社会実装促進、実証試験) |
| 負担金 | 55,000 | 0 | 55,000 | 学会等参加費 |
| コーディネーター事業費 | 1,016,000 | 810,650 | 205,350 | |
| 報償費 | 720,000 | 720,000 | 0 | コーディネーター謝金 |
| 旅費 | 296,000 | 90,650 | 205,350 | コーディネーター旅費、通勤費 |
| 分科会活動費 | 3,000,000 | 2,454,789 | 545,211 | |
| 助成金 | 3,000,000 | 2,454,789 | 545,211 | ①測量・点検・調査、②観光・教育・エンタメ |
| 総会等開催費 | 1,080,000 | 50,000 | 1,030,000 | 書面決議 |
| 報償費 | 180,000 | 50,000 | 130,000 | 講師謝金 |
| 旅費 | 200,000 | 0 | 200,000 | 講師旅費 |
| 食糧費 | 300,000 | 0 | 300,000 | 交流会費 |
| 印刷消耗品費 | 100,000 | 0 | 100,000 | 資料印刷費等 |
| 使用料及び賃借料 | 300,000 | 0 | 300,000 | 講演会会場費 |
| 事務局経費 | 787,406 | 410,389 | 377,017 | |
| 旅費 | 218,000 | 1,375 | 216,625 | 監事旅費 |
| 食糧費 | 20,000 | 220 | 19,780 | お茶代 |
| 印刷消耗品費 | 200,000 | 66,020 | 133,980 | 消耗品、事務用品費 |
| 役務費 | 214,166 | 189,691 | 24,475 | 通信費、振込手数料 |
| 使用料及び賃借料 | 135,240 | 152,083 | △ 16,843 | PCリース料 |
| 公課費 | 0 | 1,000 | △ 1,000 | 収入印紙 |
| 支出計 | 29,426,806 | 26,400,828 | 3,025,978 | |
| 繰越金 | | 1,578,847 | | |
| 合計 | | 27,979,675 | | |